

人も車和で幸に

手 事9ひらを太陽に

9 柳で子不ぼだつておかしなつておひんば

たつて かんぢかんぢをさつていう

右連存んば という致が有り

一生果命をさつていゝ姿か見さる

動物のトウもエサにすねふ少い動物をい

かすていゝ女 かくとくは五火といわれ

いゝ 十回でも十回でもおいかつて

よ少い動物をつかすえ 一袋でわけて

たへ

眼画やすれでよく見かた

遠い知りあいの衆の衆であつたやをし

ニとが有る

丁度合平中 ぶりたたかのおせいを当分の

三人 うしい人と山さの子供三人が合平中

地アが厚く 何か付石し自然と見せしるうた

廊下は土のまま 塵しきの上にわめ様で

段差をうめていゝ

そとにこしかけて主婦が合平をし

夫の輪子を見守る太の合年

夫の影を覚えて いそいで下ひの

ごはんをそそいれ居しよと

合年が終るやいふ水の入ったお茶を

かたいで下ひの縁の工のお月宮に水をかいて

い

主婦がビビッおれどまに

部屋の片すみの階段の上で着がえして

手箱が少からずあり

何となく悲しくなつて来た

フリの映画を見ていふふうだ

ふふふふおかしな子やんぼうと平和にくうして

17の夜に トウの夜が早くに思えた

2021
6/7